

## 種子島における植物採集記録

森田 康夫\*

The Report of the Plant Collection on Tanega-shima, Kagoshima Prefecture  
Yasuo MORITA

### はじめに

種子島は、大隅半島から南に約37km余り離れた太平洋上に浮かぶ細長い島で、南北52km、幅は広い所で12km、狭い部分で4km、周囲約150km、面積は480km<sup>2</sup>の割合大きな島である。島は段丘状の低い丘陵地からなり、最高点はわずか282mに過ぎず、南西の標高2km近い山岳からなる屋久島とよく対比される。海岸線は一般に砂浜海岸からなるが、南部には断崖や磯海岸も見られる。河川はいずれも小さく、中央の分水嶺を境にして東シナ海側に注ぐものと太平洋側に注ぐものに分かれる。一般に太平洋側に注ぐ河川の方がやや大きい。降水量が比較的多いので、通年枯渇することなく流れている。地質的には第三紀層の砂岩や頁岩からなり、中央部には厚い火山灰で被われた所も見られる。

種子島の植物相については、19世紀終わり頃から採集記録が発表され、20世紀後半の中頃までにほぼ全容が明らかにされている。その主なものを紹介すると、内藤喬は1927年に「種子島植物目録」を出してシダ植物以上の620種を報告した。初島住彦は1953年に「種子島植物誌」を報告した後、1971年に「種子島植物目録」において970種を報告している。これより前、佐々木舜一と大内山茂樹は1963年に「種子島自生植物の地理的分布」で670種の自生植物を発表している。また、仮屋崎忠は1986年に「種子島シダ植物仮目録」で119種のシダ植物を報告している。初島はこれらの研究をひとまとめにして、1991年「北琉球の植物」において種子島の植物を約1000種とし、種子島だけの固有種はゲンケイチク (*Sasaella masamuneana* イネ科) だけとしている。

また、堀田満は地史的な側面から南西諸島の植物分布についての考察をしているが、種子島に関するものとしては、ヤマツツジ、ノジギク類等興味深い内容に富んでいる。

当県立博物館における種子島での収集資料はきわめて少なく、木戸伸栄が1981年に39種57点を採集して収蔵したものが最多で、その他は寄贈や小規模な収集によるのみで、2003年3月現在の植物収蔵資料は、シダ植物が41種70点、被子植物が99種159点、合計で140種229点に過ぎない。

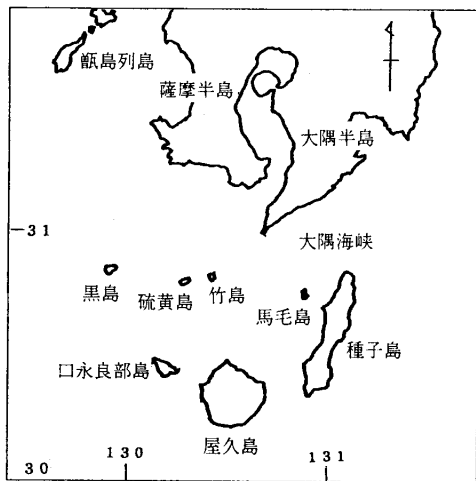


図1 種子島位置図

\* 〒892-0853：鹿児島市城山町1-1 鹿児島県立博物館

これは1000種にのぼる種子島の自生植物の約14%に過ぎず、収集点数としてはきわめて不足していると思われる。

今回、当館の収集資料を補い、さらに分布上特異な種の自生の確認とその採集を目的として、2003年の9月24日から26日までの3日間にわたり、当博物館の資料収集調査活動の一環として種子島における植物資料の収集を実施したのでその結果を報告する。3日間という短い期間を有効に利用するため、島内の植物分布に詳しい当館元学芸指導員の丸野勝敏氏に同行を依頼した。丸野氏は南種子町立茎南小学校に勤務した経験があり、さらに当館が1998年に刊行した「鹿児島の自然調査事業報告書V 熊毛の自然」における『種子島の植物相』の執筆者でもある。

丸野氏には採集地への案内のほか収集資料の同定でもお世話になった。また、疑問種等の同定で鹿児島大学名誉教授の初島住彦氏、収集資料の標本化と同定で植物ボランティアの篠崎チサ氏にもお世話になった。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

## 1 資料採集地の概要

主な採集地の状況についてその概略を述べる。

(図2参照)

### (1) 西之表市浦田海岸

浦田海水浴場の北側に位置する岩礫海岸である。人気はなく、自然海岸の様子を呈している。南方系のアマミヒトツバハギ、ヤエヤマハギカズラその他、南限種のハマカンゾウ、近くの道沿いでコナラも採集した。

### (2) 西之表市牧之峯

「いこいの森」公園に隣接する標高150mから200mの丘陵地で、比較的自自然度の高いスダシイ林におおわれた地域である。北限種であるシマオオタニワタリや屋久島との固有種であるヤクシマサルスベリその他、北方系のオオバナスビトハギと南方系のリュウキュウスビトハギを同時に採集することができた。

### (3) 西之表市古田

古田の集落から旧道を十三番方向へ向かう途中は、スダシイやタブノキが優占する照葉樹林が続いている。林内で北方系のミヤマミズやヒヨドリバナ、南方系のシマサルナシ、ヘツカリンドウ等を採集した。

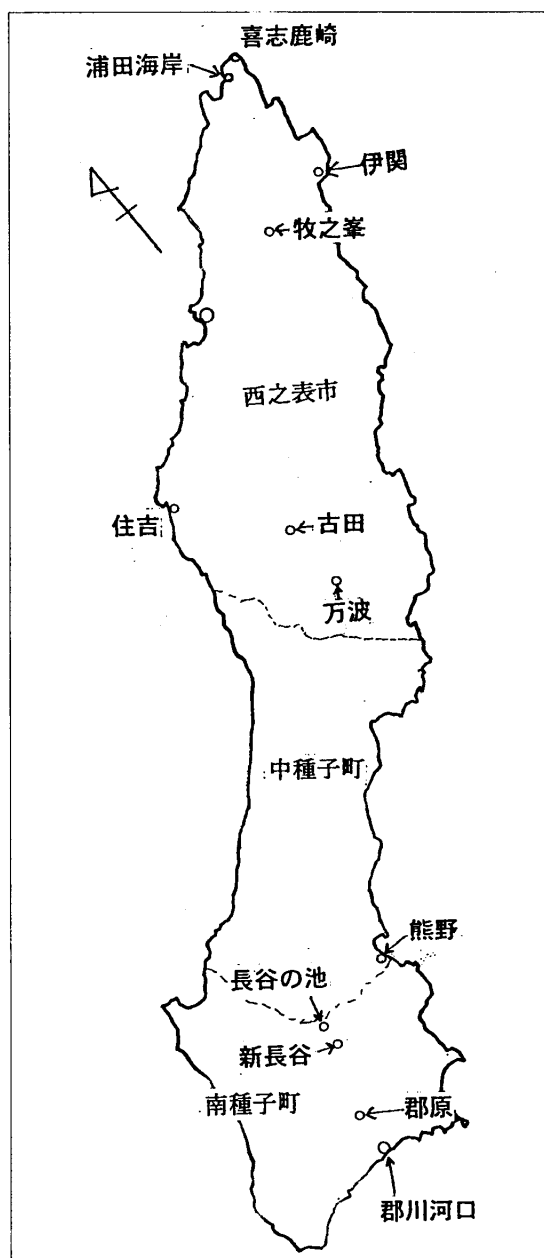


図2 種子島の植物採集地点

#### (4) 西之表市万波国有林

鴻之峯小学校から北側に2 kmほどの標高200m以上の山地。スタシイなどが優占する照葉樹林で一部は伐採が行われている。北限種のタカツルランをはじめ南方系のアデクやシシアクチ、リュウキュウモチなど亜熱帯性の森林植物が豊富である。

#### (5) 南種子町郡原

標高50~100mほどのなだらかな丘陵地で、高さ10mほどの低木林となっている。樹林内でシナクスモドキの大木を確認したほか、周囲にある水田の放棄地内ではタヌキアヤメや南限のニッポンイヌノヒゲなどの湿性植物を多く採集した。

#### (6) 南種子町長谷の池

中種子町境に近い長谷の池は灌漑用の浅いため池で、イヌクログワイやアンペライ等の湿性植物が繁茂し、水中にはジュンサイも生育している。

## 2 採集した植物について

次項からの表は、今回の調査で採集した植物資料の一覧である。合計47科108種の高等植物を採集し標本にして収蔵した。短期間で限られた場所のみでの調査であるため採集種数はそれほど多くないが、固有種や南限種、北限種など分布上注目すべき多くの種を再確認し、採集することができた。また、本県では初めての記録となるオオシラタマホシクサも採集することができた。以下、これらの植物について得た若干の知見をまとめてみる。

### (1) 種子島だけの固有種

#### ① ムラクモアオイ *Heterotropa kumageana* var. *satakeana* ウマノスズクサ科

屋久島固有のクワイバカンアオイの変種で、常緑樹林の谷筋の林床に生える種子島の固有変種である。西之表市古田の照葉樹林内で採集したが自生地は限られており、環境省の絶滅危惧ⅠA類、本県レッドデータリストでも絶滅危惧Ⅰ類に指定されている。

#### ② ゲンケイチク *Sasaella masamuneana* イネ科

本島最北部、喜志鹿崎灯台近くの路傍に比較的大きな群落で自生している。屋久島栗生の株は種子島から移植したものといわれており、当地の群生が唯一の自生地と考えられる。道路の拡幅・舗装工事等によるものか、一部枯死しつつある個体も見られた。

### (2) 種子島と屋久島に固有の種

#### ① ヤクシマサルスベリ *Lagerstroemia subcostata* var. *fauriei* ミソハギ科

奄美以南に分布するシマサルスベリの変種で、本島と屋久島の照葉樹林の明るい場所に生える落葉樹である。牧之峯の沢沿いの森で樹高15mほどの高木を確認した。

#### ② カンツワブキ *Farfugium hiberniflorum* キク科

西南日本に広く分布するツワブキと同属の種で、ツワブキより葉質が薄く鋸歯が大きい。郡原のシナクスモドキが自生する林内の枯れ沢沿いの土手上に群生していた。

#### \* ヤクタネゴヨウ *Pinus amamiana* マツ科

乾燥した尾根筋に生える常緑の高木で、種子島では絶滅に近いといわれている種である。

最近(2003年9月), 西之表市南部の早稲田川流域の国有林で, 百本以上の群生地が発見され話題となった。今回時間の都合で現地を訪れることはできなかったが, 中種子町郡原

表 種子島における植物収集資料一覧

シダ植物 Pteridophyta

科名	和名	学名	採取地	備考
ホンダウシダ科	シンエダウチホンダウシダ	<i>Lindsaea orbiculata</i> <i>var. commixta</i>	南種子町 郡原	
	サイゴクホンダウシダ	<i>Lindsaea odorata</i> <i>var. japonica</i>	西之表市 万波	初記録
	ウスバイシカグマ	<i>Microlepia substrigosa</i>	西之表市 牧之峯	
ホウライシダ科	ミズワラビ	<i>Ceratopteris thalictroides</i>	南種子町 郡原	
イノモトソウ科	シマハチジョウシダ	<i>Pteris fauriei</i>	南種子町 新長谷	
	ハチジョウシダモドキ (コハチジョウシダ)	<i>Pteris oshimensis</i>	西之表市 牧之峯	
	マツザカシダ	<i>Pteris nipponica</i>	南種子町 郡原	
チャセンシダ科	ナンゴクホウビシダ	<i>Asplenium cataractarum</i>	西之表市 牧之峯	
	アオガネシダ	<i>Asplenium wilfordii</i>	西之表市 万波	
	シマオオタニワタリ	<i>Asplenium nidus</i>	西之表市 牧之峯	北限
ツルキジノオ科	ヘツカシダ	<i>Bolbitis subcordata</i>	西之表市 牧之峯	
オシダ科	オオカナワラビ	<i>Arachniodes amabilis</i>	西之表市 万波	
	ホソバカナワラビ	<i>Arachniodes aristata</i>	西之表市 万波	
ヒメシダ科	ケホシダ	<i>Thelypteris parasitica</i>	西之表市 伊関	
	コハシゴシダ	<i>Thelypteris angustifrons</i>	西之表市 万波	
イワデンダ科	ヒロハノコギリシダ	<i>Diplazium dilatatum</i>	西之表市 牧之峯	
	ニセヒロハノコギリシダ	<i>Diplazium dilatatum</i> <i>var. heterolepis</i>	西之表市 牧之峯	
	ミヤマノコギリシダ	<i>Diplazium mettenianum</i>	西之表市 生姜山	
	ヒロハミヤマノコギリシダ	<i>Diplazium petri</i>	西之表市 古田	初記録
	ニセシロヤマシダ	<i>Diplazium taiwanense</i>	南種子町 新長谷	
	コクモウクジャク	<i>Diplazium virescens</i>	南種子町 新長谷	
	ニセコクモウクジャク	<i>Diplazium virescens</i> <i>var. conterminum</i>	西之表市 牧之峯	
	オキナワコクモウクジャク	<i>Diplazium virescens</i> <i>var. okinawaense</i>	西之表市 古田	
	アツバキノボリシダ	<i>Diplazium donianum</i> <i>var. aphanoneuron</i>	西之表市 万波	北限
ウラボシ科	オオイワヒトデ	<i>Colysis pothifolia</i>	西之表市 万波	

[ 計 9科 25種 ]

## 種子植物 Spermatophyta

## 被子植物 Angiospermae [双子葉類]

科名	和名	学名	採取地	備考
ブナ科	カシワ	<i>Quercus dentata</i>	西之表市 浦田	植栽
	コナラ	<i>Quercus serrata</i>	西之表市 浦田	南限
イラクサ科	ミヤマミズ	<i>Pilea petiolaris</i>	西之表市 古田	北方系
	ニオウヤブマオ	<i>Boehmeria gigantea</i>	西之表市 浦田	
	ケナガバヤブマオ	<i>Boehmeria hirtella</i>	西之表市 牧之峯	
	ナガバヤブマオ	<i>Boehmeria sieboldiana</i>	西之表市 万波	南限
ウマノスズクサ科	ムラクモアオイ	<i>Heterotropa kumageana</i> <i>var. satakeana</i>	西之表市 古田	固有
ヒユ科	イソフサギ	<i>Philoxerus wrightii</i>	西之表市 浦田	南方系
クスノキ科	シナクスモドキ	<i>Cryptocarya chinensis</i>	南種子町 郡原	特異分布
ツヅラフジ科	イソヤマアオキ (コウシュウウヤク)	<i>Cocculus laurifolius</i>	西之表市 伊関	
バラ科	リュウキュウイチゴ	<i>Rubus grayanus</i>	西之表市 牧之峯	南方系
	ワレモコウ	<i>Sanguisorba officinalis</i>	西之表市 牧之峯	南限
マメ科	ナンテンカズラ	<i>Caesalpinia crista</i>	南種子・郡川河口	北限
	オオバヌスビトハギ	<i>Desmodium laxum</i>	西之表市 牧之峯	南限
	リュウキュウヌスビト ハギ	<i>Desmodium laxum</i> <i>subsp. laterale</i>	西之表市 牧之峯	南方系
	トキワヤブハギ	<i>Desmodium laxum</i> <i>subsp. leptopus</i>	南種子町 郡原	北限
	ヌスビトハギ 同 (白花型)	<i>Desmodium podocarpum</i> <i>subsp. oxyphyllum</i>	西之表市 万波	
	ヤエヤマハギカズラ (ヨナクニハギカズラ)	<i>Galactia tashiroi</i> <i>forma yaeyamensis</i>	西之表市 浦田	特異分布
	トウダイグサ科	アマミヒトツバハギ	<i>Securinega suffruticosa</i> <i>var. amamiense</i>	西之表市 浦田
モチノキ科	ツゲモチ	<i>Ilex goshiensis</i>	西之表市 万波	
	リュウキュウモチ	<i>Ilex liukuensis</i>	西之表市 万波	南方系
クロウメモドキ科	ハマナツメ	<i>Paliurus ramosissimus</i>	南種子・郡川河口	南限
アオイ科	サキシマフヨウ	<i>Hibiscus makinoi</i>	南種子町 中之下	
	オオバボンテンカ	<i>Urena lobata</i> <i>var. tomentosa</i>	南種子町 中之下	南方系
マタタビ科	シマサルナシ (ナシカズラ)	<i>Actinidia rufa</i>	西之表市 古田	南方系

科名	和名	学名	採取地	備考
ミソハギ科	ヤクシマサルスベリ	<i>Lagerstroemia subcostata</i> <i>var. fauriei</i>	西之表市 牧之峯	固有
フトモモ科	アデク	<i>Syzygium buxifolium</i>	西之表市 万波	南方系
ヤブコウジ科	シシアクチ	<i>Ardisia quinquegona</i>	西之表市 万波	南方系
サクラソウ科	モロコシソウ	<i>Lysimachia sikokiana</i>	西之表市 古田	
ハイノキ科	アオバノキ	<i>Symplocos cochinchinensis</i> <i>var. philippensis</i>	南種子町 郡原	北限
マチン科	ホルトカズラ	<i>Erycibe henryi</i>	西之表市 万波	南方系
	アイナエ	<i>Mitrasacme pygmaea</i>	西之表市 牧之峯	
リンドウ科	ヘツカリンドウ	<i>Swertia tashiroi</i>	西之表市 古田	南方系
ガガイモ科	ツルモウリンカ	<i>Tylophora tanakae</i>	西之表市 浦田	
ヒルガオ科	アツバアサガオ	<i>Ipomoea stolonifera</i>	中種子町 熊野	南方系
クマツヅラ科	アマクサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i> <i>var. yakusimense</i>	南種子町 中之下	
	イボタクサギ	<i>Clerodendrum inerme</i>	西之表市 住吉	北限
	オオムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i> <i>var. luxurians</i>	西之表市 古田	
シソ科	アキノタムラソウ	<i>Salvia japonica</i>	西之表市 古田	南限
	ミズネコノオ	<i>Eusteralis stellata</i>	南種子町 郡原	
ゴマノハグサ科	シソクサ	<i>Limnophila aromatica</i>	南種子町 郡原	
イワタバコ科	タマザキヤマビワソウ	<i>Rhynchoetechum discolor</i> <i>var. austrokiushiuense</i>	西之表市 牧之峯	南方系
キツネノマゴ科	アリモリソウ	<i>Codonacanthus pauciflorus</i>	西之表市 伊関	南方系
ハマジンチョウ科	ハマジンチョウ	<i>Myoporum bontioides</i>	中種子町 熊野	特異分布
アカネ科	シロミミズ	<i>Tricalysia dubia</i>	南種子町 郡原	北限
	タシロルリミノキ	<i>Lasianthus fordii</i>	南種子町 郡原	北限
	コンロンカ	<i>Mussaenda parviflora</i>	南種子町 郡原	北限
キキョウ科	サイヨウシャジン	<i>Adenophora triphylla</i>	西之表市 牧之峯	南限
キク科	ガンクビソウ	<i>Carpesium divaricatum</i>	西之表市 伊関	
	サジガンクビソウ	<i>Carpesium glossophyllum</i>	西之表市 牧之峯	
	ホソバワダン	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i>	西之表市 浦田	
	ブクリュウサイ	<i>Dichrocephala integrifolia</i>	南種子町 郡原	
	ヒヨドリバナ	<i>Eupatorium chinense</i>	西之表市 古田	南限
	ヤマヒヨドリ	<i>Eupatorium variable</i>	西之表市 浦田	

科名	和名	学名	採取地	備考
キク科	カンツワブキ	<i>Farfugium hiberniflorum</i>	南種子町 郡原	固有
	クマノギク	<i>Wedelia chinensis</i>	西之表市 浦田	
	オオキダチハマグルマ	<i>Wedelia biflora var. ryukyuensis</i>	西之表市 浦田	南方系

[ 計 31科 57種 ]

[ 単子葉類 ]

科名	和名	学名	採取地	備考
イネ科	チゴザサ	<i>Isachne globosa</i>	南種子・長谷の池	
	ササキビ	<i>Setaria palmifolia</i>	西之表市 万波	
	ハイキビ	<i>Panicum repens</i>	南種子 長谷の池	
	台湾カモノハシ	<i>Ischaemum aristatum</i>	西之表市 浦田	
	ゲンケイチク	<i>Sasaella masamuneana</i>	西之表・喜志鹿崎	固有
	ツキイゲ	<i>Spinifex littoreus</i>	西之表市 浦田	北限
カヤツリグサ科	イガクサ	<i>Rhynchospora rubra</i>	西之表市 浦田	
	イヌクログワイ	<i>Eleocharis dulcis</i>	南種子・長谷の池	
	ハリイ	<i>Eleocharis congesta</i>	南種子町 郡原	
	テンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i>	西之表市 浦田	
	イソヤマテンツキ	<i>Fimbristylis ferruginea</i>	西之表市 浦田	
	ヤリテンツキ	<i>Fimbristylis ovata</i>	西之表市 浦田	
	アンペライ	<i>Machaerina rubiginosa</i>	南種子・長谷の池	
	カンガレイ	<i>Scirpus triangulatus</i>	南種子・長谷の池	
	オオシンジュガヤ	<i>Scleria terrestris</i>	南種子町 中之下	北限
ホシクサ科	ニッポンイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon hondoense</i>	南種子町 郡原	南限
	オオシラタマホシクサ	<i>Eriocaulon sexangulare</i>	南種子町 郡原	初記録・北限
タヌキアヤメ科	タヌキアヤメ	<i>Philydrum lanuginosum</i>	南種子町 郡原	南方系
ユリ科	ハマカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> <i>var. littorea</i>	西之表市 浦田	南限
ショウガ科	ゲットウ	<i>Alpinia speciosa</i>	西之表市 浦田	
ラン科	イナバラシ	<i>Odontochilus inabae</i>	西之表市 鴻之峯	北限
	トクサラン	<i>Calanthe gracilis</i>	西之表市 万波	南方系
	キリシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i>	西之表市 古田	
	タカツラン	<i>Galeola altissima</i>	西之表市 万波	北限
	ツユクサシユスラン	<i>Goodyera foliosa</i> <i>var. commelinoides</i>	西之表市 万波	南方系
	ボウラン	<i>Luisia teres</i>	西之表市 万波	

註：学名は平凡社刊「日本の野生植物」に従った。

[ 計 7科 26種 ]

総計 47科 108種

の町指定天然記念物の個体や西之表市立鴻之峯小学校の保存樹を観察し、写真で撮影した。

(3) 種子島を北限とする南方系の種

① シマオオタニワタリ *Asplenium nidus* チャセンシダ科

湿った林内の岩上や樹上に着生する大型のシダ植物で、オオタニワタリによく似るが葉裏面の孢子囊群が短い点が異なる。牧之峯の林内で採集した。

② アツバキノボリシダ *Diplazium donianum var. aphanoneuron* イワデンダ科

キノボリシダの変種で、葉質が厚く、羽片の裏面の脈がはっきりしないタイプである。種子島・屋久島以南の亜熱帯・熱帯の森に広く分布する。万波の林内で収集した。

③ ナンテンカズラ *Caesalpinia crista* マメ科

棘のある常緑の木本性つる植物で、種子・屋久以南の海岸近くの路傍や林縁に生える。種子島では、南種子町の郡川河口付近の湿地に群生が見られる。

④ トキワヤブハギ *Desmodium laxum subsp. leptopus* マメ科

種子島以南の南西諸島から熱帯アジアに広く分布するヌスビトハギ属の一種で、関東以西に分布するオオバナヌスビトハギの亜種である。郡原の林内で開花したものを採集した。

⑤ アオバノキ *Symplocos cochinchinensis var. philippensis* ハイノキ科

種子島以南の奄美、琉球、台湾、中国南部、東南アジアに広く分布する常緑の小高木で、同じく郡原の林内で採集した。

⑥ イボタクサギ *Clerodendrum inerme* クマツヅラ科

種子島以南の南西諸島から台湾、中国南部に分布するクサギ属のつる性低木である、長く突き出た赤い雄しべが特徴で、西之表市住吉の国道沿いに小さな群生が見られた。

⑦ シロミミズ *Tricalysia dubia* アカネ科

種子島以南の各地に自生する常緑の小高木で、やや湿った林内に多い。郡原の照葉樹林内で採集した。

⑧ タシロルリミノキ (リュウキュウルリミノキ) *Lasianthus fordii* アカネ科

同じく種子島以南の各地に分布するルリミノキ属の常緑低木である。郡原の照葉樹林内で採集した。

⑨ コンロンカ *Mussaenda parviflora* アカネ科

この種も種子島以南の各地に自生する常緑の低木である。郡原の樹林帯は南方から北上してきたと思われる亜熱帯・熱帯性の植物の北限地として貴重である。

⑩ ツキイゲ *Spinifex littoreus* イネ科

種子島以南からインドに至る各地の海岸に自生する常緑の多年草で、種子島では西之表市市街地の北側、花里崎漁港付近の砂浜海岸が北限地として指定されている。

⑪ オオシンジュガヤ *Scleria terrestris* カヤツリグサ科

シンジュガヤより大型の多年草で、茎高が1mを超えるものもある。種子島の北西に浮かぶ馬毛島が北限とされており、今回南種子町中之下の路傍で採集した。

⑫ イナバラシ *Odontochilus inabae* ラン科



本県では種子島と屋久島だけに記録がある常緑の地生ランで、主な産地は沖縄である。西之表市南部の鴻之峯小学校近くの竹林内で採集した。希少な植物で、環境省のレッドデータリストの絶滅危惧 I B 類、及び県版リストの I 類に指定されている。

⑬ タカツルラン *Galeola altissima* ラン科

採集地の西之表市の万波や古田の森を北限とする腐生のつる性地生ランである。万波では個体数が少なく、数個体しか認められなかった。これも環境省のレッドデータリスト絶滅危惧 I A 類、及び県版リストの I 類に指定されている。

(4) 種子島を南限とする北方系の種

① コナラ *Quercus serrata* ブナ科

県本土以北では二次林を構成する普通種であるが、南西諸島では種子島の中北部が南限となっている。西之表市北部の浦田海岸へ出る途中の道路の林縁で採集した。

② ナガバヤブマオ *Boehmeria sieboldiana* イラクサ科

本州以南の山地に生える多年草で、種子島・屋久島域が南限である。万波の森近くの道路沿いで採集した。

③ ワレモコウ *Sanguisorba officinalis* バラ科

本州から九州の明るい草原などに広く分布するワレモコウ属の多年草で、暗紫色の花穂がよく知られた植物である。牧之峯近くの草地で採集した。

④ オオバナスビトハギ *Desmodium laxum* マメ科

種子島の他、屋久島、三島の薩南諸島を南限とするヌスビトハギのなかまで、関東地方まで分布している。牧之峯の林内で採集した。

⑤ ハマナツメ *Paliurus ramosissimus* クロウメモドキ科

種子島・屋久島地域が南限といわれる半常緑の低木で、海岸の湿った砂浜などに自生する。種子島では、南種子町の郡川河口の砂地に群生している。

⑥ アキノタムラソウ *Salvia japonica* シソ科

本州以南に広く分布する多年草で屋久島が南限とされているが標本がなく、近年確認されたものとしては種子島が南限と考えられる。西之表市古田と浦田の路傍で採集した。

⑦ サイヨウシャジン *Adenophora triphylla* キキョウ科

この種も屋久島が南限とされているが標本がなく、確実に生育が確認されている自生地は種子島である。牧之峯周辺の道路沿いで開花している個体を多数見つけ採集した。

⑧ ヒヨドリバナ *Eupatorium chinense* キク科

本州以南の本土の各地に広く分布しているが、倍数性による変異が多い種である。種子島のものは、倍数性単葉型といわれ、紫尾山や霧島山系のものと同型であるといわれている。

⑨ ニッポンイヌノヒゲ *Eriocaulon hondoense* ホシクサ科

北海道から種子島までの湿地に生えるホシクサのなかまでであるが、本県では個体数は少なく、県版レッドデータブックでは絶滅危惧 I 類に指定されている。郡原の水田放棄跡と

思われる湿地帯で採集した。

⑩ ハマカンゾウ *Hemerocallis fulva var. littorea* ユリ科

関東以西の海岸に生えるワスレグサ属の一種で、屋久島と本島が南限とされる。種子島では浦田の海岸で採集したが個体数は少ない。

(5) 特異な分布を示す植物

① シナクスモドキ *Cryptocarya chinensis* クスノキ科

シナクスモドキ属の一種として日本に唯一自生する植物で、本県では種子島にのみ自生し、他には宮崎県の幸島に分布する。台湾や中国大陸南部から大きく隔離して分布する珍しい植物である。種子島・郡原の自生地では、果実をつけた高木を1本と数本の稚樹を確認した。

② ヤエヤマハギカズラ (ヨナクニハギカズラ) *Galactia tashiroi forma yaeyamensis* マメ科

主に沖縄や先島諸島に分布する常緑のつる性多年草であるが、隔離的に種子島と熊本県の天草に見られる。種子島での記録は島間海岸のものであるが、今回西之表市の浦田の海岸で採集した。個体数は少ない。

③ ハマジンチョウ *Myoporum bontioides* ハマジンチョウ科

塩性の泥湿地に生える常緑の低木で、本州の志摩半島と五島列島、天草、琉球以南に分布する。本県では、阿久根市の渦(北限、県指定天然記念物)と種子島の熊野(採集地)、それに奄美大島で自生している。熊野や奄美大島ではメヒルギ等と混在し、マングローブを構成する植物となっている。

(6) その他、南方系の熱帯・亜熱帯性植物

- ・イソフサギ *Philoxerus wrightii* ヒユ科 北限は紀伊半島南端、薩摩半島南端にも分布
- ・リュウキュウイチゴ *Rubus grayanus* バラ科 大隅半島南部が北限
- ・リュウキュウヌスビトハギ *Desmodium laxum subsp. laterale* マメ科 県本土南部が北限
- ・アマミヒトツバハギ *Securinega suffruticosa var. amamiense* トウダイグサ科 県本土南部(下甕島)が北限
- ・リュウキュウモチ *Ilex liukuensis* モチノキ科 薩摩半島南部(磯間岳)が北限
- ・オオバボンテンカ *Urena lobata var. tomentosa* アオイ科 大隅半島南部が北限
- ・シマサルナシ *Actinidia rufa* マタタビ科 紀伊半島南部が北限、県本土以北では希
- ・アデク *Syzygium buxifolium* フトモモ科 川内から宮崎県南部の線が北限
- ・シシアクチ *Ardisia quinqueгона* ヤブコウジ科 宮崎県が北限
- ・ホルトカズラ *Erycibe henryi* マチン科 薩摩半島南部から大隅半島南端が北限
- ・ヘツカリンドウ *Swertia tashiroi* リンドウ科 大隅半島中南部が北限
- ・アツバアサガオ *Ipomoea stolonifera* ヒルガオ科 薩摩半島南側の海岸が北限
- ・タマザキヤマビワソウ *Rhynchochum discolor var. austrokiushiuense* イワタバコ科 大隅半島南端(佐多町)が北限

- ・アリモリソウ *Codonacanthus pauciflorus* キツネノマゴ科 大隅半島が北限
- ・オオキダチハマグルマ *Wedelia biflora* var. *ryukyuensis* キク科 佐多町の海岸が北限
- ・タヌキアヤメ *Philydrum lanuginosum* タヌキアヤメ科 九州以南
- ・トクサラン *Calanthe gracilis* ラン科 下甑島が北限
- ・ツユクサシユスラン *Goodyera foliosa* var. *commelinoides* ラン科 九州南部以南

(7) 北方系の温帯植物

- ・カシワ *Quercus dentata* ブナ科 県本土北部が南限とされており、植栽された個体と推定されている。
- ・ミヤマミズ *Pilea petiolaris* イラクサ科 トカラ列島中之島が南限

(8) 初記録種

種子島の植物相を記した最新の記録は現在の所、初島住彦氏の著した「北琉球の植物」であるが、今回採集した植物のうちシダ植物3種とオオシラタマホシクサについてはそこに記載がない。その後、2003年に発表された県版のレッドデータブックには、ニセヒロハノコギリシダの種子島での生育が記録されているので、残りの3種が今回の調査における種子島での初記録となる。

① サイゴクホングウシダ *Lindsaea odorata* var. *japonica* ホングウシダ科

ホングウシダの変種でやや小さい。八丈島や伊豆半島、紀伊半島南部、九州、琉球の川沿いの岩上に生える。この地域ではこれまで屋久島と三島村の黒島で記録がある。

② ヒロハミヤマノコギリシダ *Diplazium petri* イワデンダ科

羽片が深く裂けていることや、最下羽片の柄が2～3cmと長い点がミヤマノコギリシダとの区別点で、三重県や広島県、本県と沖縄に分布が確認されている種である。この地域では屋久島と黒島で記録がある。

③ オオシラタマホシクサ *Eriocaulon sexangulare* ホシクサ科

湿地に生える1年草で、長い花茎の先につく径5mmほどの白い球形の頭花が特徴的な植物である。インドや東南アジア、台湾などが主な生育地で沖縄本島が北限とされ、鹿児島県以北での記録はなかったが、今回南種子町郡原の湿地で採集した個体により、北限が数百kmほど北上したうえ、本県での生育が初めて確認されることになった。なお、この標本は初島住彦氏により同定されたものである。

・ニセヒロハノコギリシダ *Diplazium dilatatum* var. *heterolepis* イワデンダ科

紀伊半島と九州南部、沖縄の林内に生えるヒロハノコギリシダの変種で、鱗片が幅広く辺縁が黒くならない個体である。この地域では屋久島のみで自生が知られていた。(県版レッドデータブックに種子島での生育が記載)

おわりに

以上、種子島において収集した47科108種の植物についてその概要を報告した。わずか3日間という短い期間であり採集した場所も限られているが、ムラクモアオイなど4種の固有種と、シマオオタニワタリなど13種の北限種や18種の南方系の植物。コナラ等10種の南限種と2種の北方系植物。さらにシナクスモドキをはじめとする3種の特異な分布をしている植物など、分布上貴重な種を採集し標本として収蔵することができた。しかもそのうち3種は種子島における初記録種であり、オオシラタマホシクサにいたっては本県初記録の貴重な植物である。さらに、収蔵した108種のうち、66%にあたる71種が当博物館における種子島産植物の初めての収蔵品であることは、収蔵資料の質・量の増加に大きく貢献したものと考える。

また一方では、タカクマムラサキ *Callicarpa longissima* (クマツヅラ科) のように環境省並びに県の絶滅危惧Ⅰ類に指定され、現在種子島でしか存在が知られていない植物についても、その確認を試みたが、生育地といわれる南種子町中之下の山林を丸野氏の案内で探したにもかかわらず、時間不足もあって見つけることができなかったのは残念である。

種子島は南西の屋久島に比較すると固有種も少なく、植物相の分野ではそれほど有名とはいえないが、奄美・沖縄に生育する熱帯・亜熱帯植物の北限地として、あるいは九州本土に生育する温帯植物の南限地として、植物の分布を語る上で非常に重要な位置にあると考えられる。この地は平坦な土地が多く、人間活動に伴う土地利用も進み、人為的な影響をあまり受けていない自然度の高い地域は減少の一途をたどっている。分布上貴重な植物がこれ以上失われることのないように保護の手を加えていくとともに、今後も植物の調査や資料収集を継続的に実施していく必要性がある。

#### 引用・参考文献

- 鹿児島県環境生活部環境保護課，2003，鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編－鹿児島県レッドデータブック－，財団法人鹿児島県環境技術協会。
- 環境庁自然保護局野生生物課，2000，改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－8，植物。
- 佐竹義輔他・編，1981，日本の野生植物草本Ⅰ～Ⅲ．平凡社，東京。
- 佐竹義輔他・編，1989，日本の野生植物木本Ⅰ～Ⅱ．平凡社，東京。
- 初島住彦，1986，改訂鹿児島県の植物目録．1－290，鹿児島。
- 初島住彦，1991，北琉球の植物，1－5，54－187，朝日印刷書籍出版，鹿児島。
- 堀田 満，2003，九州南部から南西諸島地域での植物の進化，日本植物分類学会誌．3，2，77－94。
- 丸野勝敏，1998，種子島の植物相，熊毛の自然，鹿児島県の自然調査事業報告書．30－33，鹿児島県立博物館。

# 種子島の植物と景観



アツバアサガオ（南方系）



ゲンケイチク（固有種）



タカツラン（北限種）



シナクスモドキ（特異分布種）



イボタクサギ（北限種）



ハマカンゾウ（南限種）



長谷の池